

声を聞いて

大分県 宇佐市立宇佐中学校 3年
安東 セア (あんどう せあ)

白い靴下ばかり履いているいところ。

私のいところはスポーツが大好きでマラソン大会では9年間誰にも1位を譲らなかったそうです。高校では陸上部に入り、長距離選手として活躍していました。私も大会の応援に行った事があり、いところが走っている姿は今でも思い出せます。そんないところは19歳の時に障がい者になりました。事故で脊髄を損傷してしまい腰から下が動かなくなりました。今は車椅子を利用しています。

常に自分の車椅子を持って移動しているいところ。ある日、一緒に買い物に行くことになり、車に車椅子を入れるスペースがなかったのでデパートで車椅子を貸し出してもらおうと話をしていると、「それは無理だ」と言い出しました。いところは足の感覚がないので車椅子のペダルから足が落ちててもそれに気づかず走り続けてしまいます。そうすると足は地面に擦れたまま走り続けることになるので、気づいた時には血だらけになっている、ひどい時には足の指を骨折するかもしれないからとのことでした。いところの車椅子にはベルトが付いているので固定できるが、貸出用の車椅子にはベルトがないものがほとんどのようです。私たちは気づきませんでした。車椅子はどれも同じだと思いこんでいたのです。そして、もう一つ、いつも白い靴下を履いている理由を聞いてはっとしました。ケガをしても痛みがないからケガをした事自体にすら気がつかない。でも白い靴下なら血が出ていたら一目で分かるというのです。実際に一度、自宅でドアに足を挟んだ事に気づかず爪が剥がれている状態があったそうです。たまたま白い靴下を履いていたので早めに気づけたけど、白でなかったらわからなかっただろうと言っていました。それからずっと白い靴下を履いているそうです。

私たちの普段の生活では気づかない事が実際にはたくさんあることを知りました。車椅子の貸出しがあったり、障がい者用の駐車スペースがあったり、多目的トイレがあったり、バリアフリーだったり、一見とても障がい者に寄り添った社会だなと思いがちですが、実際にはどうでしょう。障がい者用の駐車スペースがあるのはいいけど、屋根の付いてない所もあるため、雨天の際に車椅子の出し

入れだけでずぶ濡れになる。自動車に貼る車椅子マークは障がい者が運転している車なのか障がいがある人を乗せている車なのかが分からない。いここは車の運転をします。アクセルとブレーキに機械を取り付けて手で操作できるようにしています。ハンドル操作もあるため信号待ちなどの発進時には少し他の車より時間がかかるようです。しかし車椅子マークを見ても障がい者が運転しているとは認識されず、クラクションを鳴らされるなど思いやりのない運転をする人が多いそうです。それから、駅など屋外のスロープの手すり。真夏の手すりは太陽の熱ですごく熱くなっていて触れたものではないそうです。それと、コンセントの位置。コンセントは低い位置にある事がほとんどのため、車椅子で生活している人にとってはとても利用しづらいものとなっているそうです。

これらは私のいこの声です。障がいがある人は他にもたくさんいます。車椅子だけではなく、目の見えない人、耳の聞こえない人など色々な種類の障がいがあります。きっとそれぞれ、本人しか分からない不便を抱えていることでしょう。

障がい者のために作ったものは利用する人の声を聞いたのでしょうか。障がいがない人が便利だろうと思って作ったものではないのでしょうか。作った事だけに満足していないのでしょうか。使い心地はどうか確認した事はあるのでしょうか。

そのような施設・設備は、みんなが平等に幸せに暮らしていけるように工夫していることが伝わるからこそ、そこに障がいがある人の生の「声」が入っていないければもったいないなと思います。障がいがある人たちに直接話を聞いて、これからの社会に少しずつ活かしていければ、障がいのある人もない人もお互いに気持ちよく過ごしていけるのではないのでしょうか。

私は、どんな時も相手の立場に立って物事を考えられる人になりたいと思っています。相手の気持ちをくみとり想像する。そして相手がどう思うかを考えて行動する。そのためには相手の声を聞く事を大事にしようと思います。相手の顔や表情・言葉など、どのような反応をしたかを直接見て、聞く事で相手が本当に求めているものが伝わると思うから。

これからの生活、社会をより良いものにするために、私は声を聞きます。